

## 2021年に肺癌手術を行う症例のデータベース作成に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

**研究期間：(2020年11月11日)～ 2029年 12月 31日**

**〔研究課題〕** 2021年に外科治療を施行された肺癌症例のデータベース研究

**〔研究目的〕** この研究を行う肺癌登録合同委員会は、日本呼吸器外科学会、日本肺癌学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本胸部外科学会が共同で運営している組織で、5年ごとに我が国で肺がんの外科治療を受けた患者さんの情報を集め、治療状況を調査しています。このようなデータを調べることで、肺がん治療成績の向上に貢献するとともに、世界共通の評価基準を作ることに協力してきました。今回は、2021年に手術を受けた患者さんの情報を集めて分析します。また、国際的なデータベースに協力し、肺がん診療の世界基準の構築に貢献いたします。

**〔研究意義〕** 肺がんを確実に早く治療するには、早期発見と根治手術が最も確実な治療法とされており、全ての肺がん患者さんの約50%が手術を受けています。肺がんの病状によっては、手術前に放射線療法や化学療法またはその組み合わせ治療を受けたり、手術後に化学療法や放射線療法を受けたりする場合があります。そして手術を受けた約半数の患者さんは、手術時に見つからなかった場所のがんが手術後に発見される事があり、さらに治療を要する場合があります。このように肺がんの手術治療を受ける患者さんは、病状や全身状態によって多彩な経過をたどることになります。肺がんの治療成績は年々向上していますが、患者数は未だ増加傾向にあるため、今後さらに新しい検査、手術技術や薬物など、診断や治療方法の開発が必要です。そのためにも、全国的な多施設共同研究が必要と考えられます。

**〔対象・研究方法〕** 2021年1月1日～2021年12月31日に、肺癌に対する手術を受ける20歳以上の方

**〔研究機関名〕** 帝京大学医学部附属病院

**〔個人情報の取り扱い〕** 診療情報については個人が特定できる情報を削除して個人が特定できないようにして管理します。論文発表後10年間の保存を基本としており、保存期間終了後は、紙媒体の診療情報についてはシュレッダーにて廃棄、パソコンなどに保存している電子データは復元できないように完全に削除します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

### 問 い 合 わ せ 先

研究責任者：川村雅文

研究分担者：坂尾幸則、齋藤雄一、山内良兼、出嶋仁

所属：帝京大学医学部外科学講座

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 33618 ]